
悲恋

DEW

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲恋

【Nコード】

N4632B

【作者名】

DEW

【あらすじ】

初めての恋を失います…足が竦んで動きません。

私は、恋を失う途中。

“人事異動”なんて訳分らない手段によつて。

気付かないうちに電車の中で泣いてたみたいで声をかけられた。
「なんで泣いてるの？慰めてあげようか」

ウザイ。

あんたはあの人じゃないでしょ。

どうか神様、

私に彼をください。

私には永遠の愛はないかもしれませんが。

彼の白髪混じりの髪が真っ白になってしまったらこの想いは消えて
なくなるかもしれません。

でも神様、

私には彼が必要なんです。

どうしても駄目でしょうか？

どうしても行ってしまうのでしょうか？

どうしても、

どうやっても、

叶わない願いなのでしょうか。

私程彼を必要としている人はいないし私程彼がいなくなって泣く人
はいません。私程彼を想って胸を痛ませる存在はありません。

奥さんより、娘さんより彼の帰りを忠実に待つ愛犬より。彼の故郷の空がこれほど羨ましく憎く思うのは。私だけ。

私の4年分の想いを伝えようと彼の所に行った。出てきた言葉は“お世話になりました”

そんな薄っぺらい言葉が言いたい訳じゃない。

下げた頭が上げられない。きっとこんな顔を見られたら困らせてしまふ。異変を察した彼が口を開こうとする。言わないで。

何も言わないで。

何か言われてしまったら想いは容易く制御できなくなり溢れだしてパンドラの箱みたいに世界を狂わせてしまふ。

下らない笑い話で彼の言葉をやつと遮る。

ほつとした顔の彼の顔をぼやけた目で心に刻み込んで。

願いは叶うことなんてなく時間は死刑執行人になってはつきりとした足音で近づいて来る。

だから私は雪の積もった公園に寝転がり目を閉じる。

明日はもう目を醒まさなくてすむ、それが唯一の救い。

遅すぎた26年目の初恋。

世界は何一つ変わらず。私は心と恋と彼を失った

こんな世界、

無くなればいい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4632b/>

悲恋

2010年10月11日02時41分発行